

ぼくの名前は、「大樹」と書いて、「ひろき」と読みます。お母さんがぼくが生まれる前から、この名前を付けたいと思っていました。「大らかに大きい樹木のようにたくましく育てほしい。」という願いを込めて、お父さんとお母さんが、この「大樹」という名前を付けてくれました。



ぼくがまだおなかの中にいるときに、実はもう一つ、呼ばれていた名前がありました。その名前というのは、「クリボー」です。お母さんはよく、「スーパーマリオブラザーズ」のゲームをしていました。そして、その中で出てくる敵キャラの「クリボー」の名前を、ぼくのニックネームにしてくれたようです。でも、「大樹」という名前には、「大きい樹木のようにたくましく育てほしい。」という意味がこめられているのに、「クリボー」は、一度ふまされると、ペシャンコになって死んでしまいます。言ってみれば、「正反対」なのです。

左の写真は、ぼくの写真です。上の写真は、ぼくが一才ぐらいの時の写真です。このころのぼくは、身長約78センチ、体重約9.5キロほどの体で、ダンボール箱に入れるくらい、小さかったです。

下は、今年の中学校の入学式です。今のぼくは、身長約165センチ、体重約60キロぐらいの体です。こうして考えてみると、ぼくは「大樹」という名前の通り、大きく、たくましく育つことができました。ぼくは、この「大樹」という名前を、気にいっていて、とてもうれしいです。

私の名前は、「だいじゅ」と読みます。幼い時には、愛称で「だいちゃん」、「だいくん」などと親しみを込めて呼ばれており、自分としてはいい名前だなと単純に思っていた。



成長するにしたがい、だんだんと自分の重い名前に負けそうな気がしてきて親に対して随分と大仰な名前を付けてくれたものと恨めしい気がしてきた。ある時父に何でこんな名前にしたのかと聞いたところ、父親曰く「この世に生を受けた子供に対し、親というものは人が自然に集まってくれるような人物になって欲しいとか、りっぱな大きな人間になって欲しいなどと願いを込めて命名するものだ。自分は公園を作る仕事に携わっており、子供が生まれる前から緑に関する名前を付けてあげようと考えていた。

ある日、お前が生まれてから自分なりによい名前を付けてあげようと考え、すぐに思い浮かんだのが地球上にある大木、例えばアメリカの世界で一番太く生育するセコイアオスギ、西アフリカなどにある特異な形に生育するバオバブノキ、世界一背の高くなるユーカリノキなどの他、日本では屋久島の縄文杉などの大木をイメージした「大樹」という名前であった。

「大樹」のイメージとして、太い枝を四方八方に広げ、暑い時には涼を求めて人々がその下に集まるだろうし、雨の時には一時の雨宿りにも役に立つものだ。また、季節毎の変化で新緑のとき、開花のとき、紅葉のとき、あるいは冬枯れのときなど、人々にその木のもつ壮大で荘厳な時々の変化を楽しませてくれるものだ。

さらには何千年もの間、周辺の変化にも耐え呈々と聳えるさまは畏敬の念すら感じられるものであり人間の人生と比べればほんの一瞬でしかない時を幾重にもかさねて立ちつづけていることにすばらしい感動を呼び起こすものであり、このようなことからお前に命名したのだ。」との話をきき、改めて期待の大きさに気が重くなりつつも、名前に負けないよう自分なりに少しは親の期待に沿えるよう頑張ってみようかとも思うようになった。

熊本県横島町の大樹さん

特別住民番号1140

我家の長男大樹は、平成6年12月12日、2932gで生まれました。妊娠中から小腹で、8ヶ月の頃切迫早産で入院しました。入院中お腹の赤ちゃんの大きさをエコーで計りますが、平均体重よりずいぶん小さいみたいでした。私はお腹の赤ちゃんに、「大きくなるまでは、お腹の中にいないとだめだよ」と言い聞かせながら毎日お腹を摩っていました。



そのかいあって予定日の一週間前に無事出産する事ができました。

生まれたての赤ちゃんは、頭が大きくて、体がやせっぽっちです。でもパパの顔にそっくりな男の子でした。パパの願いは、「俺も小さい方だったから俺を越す大きな男に育ててほしい。」ママの願いは、「これから背は高くないと持てないからね、私も賛成。それに健康で優しい子に育ててほしいな。まず「大」の字のつく名前がいいよ」候補は、大輔、大地、大河、大土、いろんな名前が上がりました。パパが「大樹」という名前を見つけてからその名前が離れませんでした。

大樹、大地に大きな根をはり、大空に雄大に枝や葉を広げる大きな樹木。見ているだけで心が和む大きな樹。大樹という字を見れば見るほど、この名前が大好きになりました。パパもこの名が一番と気に入って「大樹」という名前に名付けられました。

現在5才になります。体格は小柄ですが明るくて毎日元気一杯、大声で笑って泣いて、いっぱいおしゃべりをして過ごしています。

きっと将来大きな樹になってくれると思います。(大樹の母より)

北海道札幌市の大樹さん

特別住民番号1144

僕は、平成3年7月11日午後3時12分、体重3810g、身長53.4cmと平均よりも大きく生まれてきました。僕の名前は、お姉ちゃんが生まれる時から男の子なら「圭佑」と決まっていたそうです。なのにある日、お父さんが地下鉄の中で、ひらめいて「大樹」に変更になってしまいました。お



父さんが云うには、年を重ねるごとに、大きく成長していく力強さがあるのと、お父さんの名前尚樹の樹を一字もらったのだそうです。僕もこの名前は気に入っているけれど、まだ二年生の僕には「樹」という字が上手に書けなくて、困っています。僕の名前と同じ大樹町に、行ってみたいと思っています。

兵庫県神戸市の大樹さん

特別住民番号1146

辻 大樹(だいき)。平成6年7月25日、午後7時57分に福井県小浜市に生まれました。身長も心も、大きく育ててほしいという願いから、「大」という字を名前に使いたいと考えました。そして「大」という字から連想したものは、大地にしっかりと根を生やし豊かな緑を繁らせた一本の大きな樹でした。「寄らば大樹のかげ」という言葉がありますが、まさに多くの人の中心にあって頼りにされるような、そして周りの人間をほっと和ませるような、そんなイメージをもって「大樹」と名付けました。



うちの大樹くんは平成11年現在5才になりましたが、名前の通り多くの友達の人気者で、毎日元気に走りまわっています。これからも名前に負けないように育ててほしいと思います。(父)

福岡県北九州市の大樹さん

特別住民番号1147

大地にしっかり根を生やして、枝を力いっぱい広げて、何十年も生きて、人々が集まる樹を思いながら、暑い時には、影を作ってあげたり、涼しい風を運んであげたり、疲れた時には、木影で休ませてあげたり、そばに来てくれる人たちを、気持ち良く受け入れて、優しい気持ちにさせてあげられる子に育ててほしい。それと、男の子なので、何十年も、雨風に負けずに立っている木のように、いろんな困難を乗り越えていける忍耐強さを持ってほしいと思い「大樹」と名付けました。



その願いが通じたのか、1歳頃、3度も入院し、注射を毎日のように、しなければならなくなりました。当初は、火がついたように泣いていましたが、2歳を過ぎた頃から、泣かずに我慢するようになりました。それ以後も、カミソリで、指先を切り落としそうなほど切ったまま、泣きもせず、水遊びをしていたり、部屋で遊んでいて、左足の小指を脱臼して、横向きに折れてしまったりと、次から次へと色々な事が起こります。

悲しい事や、悔しい事があっても、周囲が気づいて問い詰めないで、「何でもないよ。大丈夫だから。」と言って、なかなか言おうとしません。まだまだ、やんちゃ盛りでけがもたくさんあるだろうけれど、大きくなるにつれて、心にも、いろんな問題が出てくると思うので、我慢するだけでなく、話し合っ、一つ一つ、一緒に、乗り越えていけるといいね。(母)

北海道札幌市の大樹さん

特別住民番号1162

昭和58年1月17日、午後5時15分、体重3760グラムで生まれました。松永家の長男として命名されたこの名前は、伯父さんが名付け親です。当時独身主義だった伯父さんが大好きな字と響きということで「だいき」この名前をつけることになりました。神棚にはった、この名前、姓とあまりにもつながりがよすぎて、この名前にふさわしい人間として育てていくことができるか、とても不安になりました。



そんな親の心配をよそに、大樹はたくさんの母乳を飲み、早くから離乳食を食べ、生後9ヶ月で歩き始め、1歳の時には、走り回っていました。

小学校卒業までは、中標津町の大自然の中で、ノビノビと成長し、とてもサバイバルな体験をたくさんしました。中学校入学と同時に札幌の父の転勤でお引越、小学校三年から続けていたバスケットボールを現在も続けています。中学入学時140センチしかなかった身長も現在175センチ、まだまだ伸びています。北高でたくさんのお友達に恵まれ、毎日、楽しい学生生活を送っている大樹、名前に負けない、大きく、太い樹に成長してくれています。(大樹母代筆)

東京都あきる野市の大樹さん

特別住民番号1166

この“全国の大樹さん募集”に応募したきっかけは、新聞に記載されていたのを見て、息子に“将来記念に何かを残してやれたら”と思い応募しました。又、特別住民にさせて頂き、大樹町とのつながりが出来た事をうれしく思っております。



さて、我が家の息子“大樹”は、平成7年7月15日生まれの現在4歳になるやんちゃで元気な男の子です。この子が私のお腹にいる時、主人とお互い名前を考え、男の子であれば主人の“秀樹”の一字を使った名前です。という事でいろいろ候補を上げ、それぞれ出し合った名前の中にただ一つ同じだったのがこの名前だったので。

大樹という名前をつけた理由には、しっかりとて大きいイメージがあり、将来何があっても自分で道を切り開き歩んでほしい。どこでも生きていけるようなたくましい子に育ててほしい。名字が青山なので、沢山の青い山の中で一番大きな樹になってほしい(沢山の人達の中でも、目立つ秀でた子に育ててほしい)という願いを込めて名付けま

した。

産まれてからは、ママから離れられず、なかなかお友達の中にも入って行かれず、名前のイメージとはかけはなれていた息子ですが、妹(瑞希・1歳)もでき、今年の春から幼稚園に入り、今ではクラスのリーダーシップをとり、だんだん名前通りの子に育ちつつあります。

男の子なので、なかなか親の思うようにはいかず、てこずる事と思います。これから成長していく息子を、のびのびと大きな気持ちで見守り、何かの時には、支えてやれる親になりたいと思っております。(母)

大阪府泉大津市の大樹さん

特別住民番号1174

「大樹」たいじゅ

結婚してから4年目にして、やっと待望の赤ちゃんが生まれました。平成六年八月十八日、3,190gの元気な男の子です。



いろいろな名前を考えましたが、どれもあまりピンとくるものがなく、赤ちゃんの顔を見てから決めました。『大樹』と書いて『たいじゅ』と読みます。元気にすくすく育ててほしい。「よらば大樹の影」の様な存在になってほしい。そして名字が『横山』なので『山』には大きな樹が必要といういろいろな思いをこめて名付けました。その甲斐があったのか現在は『佳林(かりん)』『楓芽(ふうが)』という二人の妹・弟の立派なお兄ちゃんになりました。名前のおり体格も大きくクラスで一番うしろです。

いつまでも健康で、すくすく、のびやかに育ててね、大樹くん。(父)

千葉県東金市の大樹さん

特別住民番号1176

大樹の名前の由来、一言で言うとハワイにある木「モンキーポット」。皆さん「モンキーポット」と聞いてもピンとこないと思いますが、日立製作所のCMで「この木何の木気になる木」と言えば「あーあの木か」とお判りになると思いますが、あの木をイメージして名前をつけました。



大樹がお腹にいる時、夫婦でテレビを見ているとCMでこの木がでてきました。その時二人で「大きくて、熱い日の陽射しからも、雨の日の雨からもこの木の下にいれば守ってくれそうだね。安心、やすらぎ、そしてたくましいそんな言葉がピッタリの木だね。男の子だったらこの木のように丈夫でたくましく、そして皆にやさしい子になってほしいね。」と二人で話していました。生まれてきた子は元気な男の子だったので予定どおり大樹とつけました。大樹は10月で3歳、妹もでき、ウルトラマンが大好きで父親を怪獣にして遊んでいます。これからも名前由来通り、そしてウルトラマンみたいに強く育ててほしいと思います。(父)